

検証・浦和電車区事件の真実 No. 19

民主化闘争情報 号外] 2008 年 5 月 28 日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合)

第 19 回 失礼だよ、おまえ、職場に来るの！

2001 年 2 月 13 日から 16 日まで 4 日連続で 7 回続いた Y 氏（当該事件被害者）に対する JR 東労組浦和電車区分会の糾弾集会の様子は、すでに紹介した通りである。たった一人の Y 氏を、集団で口汚く脅し罵るやり方は、到底、まともな労組活動とは言えない。今号では、この中で、特徴的な発言などを紹介したい。

会社だって辞めてくれよ！

被告の中で、とくに執拗に糾弾したのは大潤と小黑だった。大潤は「おまえが今までやってきた態度は全部グリーンじゃないのか、おめえ！」、「だから、おめえよ、組織壊すために職場の中で動いてる」と、小黑は「結果こうなったんだから、最初どうしたかったのか。ないわけねえだろう。なかったらこんなにできるわけねえだろう。それをさあ、職場で追及してんだよ！」「どうすんだよ、ここまで来ちゃったけど。おまえがいることで、こういうふうになってんだ。どうするんだよ！」などと追及し、Y 氏が当初からグリーンユニオンと結託した「組織破壊者」であることを認めさせようと躍起になっていた。

また、大潤は「ふざけんじゃねえ、この野郎！おまえ一匹オオカミでいたいなら、組合も辞めるってことになるし、会社だって辞めてくれよ」「会社辞めることだって言ったら、結局、普通通りにきたじゃないかよ。会社に泣きついてよ。俺と八ツ田がそういうふうに言ったってことになってんだろう (No.8・9 参照)」「おまえ、失礼だよ、おまえ、職場に来るの」などと脅し、組合のみならず、会社も辞めるよう恫喝した。小黑も、「卑怯だよ、おまえは！」「俺と同年なんだから、いろんなことわかんと思うからさあ。決着つけろよ、ここで！」「いつ脱退すんの、今日？」などと追及し、執拗に脱退や退職を迫っていた。

Y 氏が会社に相談したことを逆恨み！

被告の上原分会長は「当直の話聞きゃ、社員から辞めろって言われたんで、そういうふうに言うわけよ。精神的に不安定で乗務もできない、と」「事故も起こしかねないんで当分休ませてくれっていう話をしてたんで、もう辞めようと思って考えてるってことは言ったらしい」「組合にガンガン嘘ついたことでやられて、だから精神的に不安定なんだということ言うわけさ。誰のせいだって言うんだよ！ふざけるのもいい加減にしろと思うけどね」などと追及していた。大潤の発言をみても、東労組は、Y 氏が追及で精神的に不安定になり、事故を起こしかねないと会社に訴えていることを十分認識しており、Y 氏が会社に相談したことを逆恨みしていたことは明らかである。

当時、会社が東労組から軽視されていた実態や、東労組が追い詰められた Y 氏の精神状態を知っていながら、東労組が連日の糾弾を敢行して追及を強化していたことがよくわかる。東労組にとって、組織に不都合な者の安全問題など眼中にないのだろう。(次号に続く)